

豊中の未来を描こう！！

発行 2017年8月

VOL. 130

程よい休息
適度な水分補給を
心がけましょう。

豊中市議会議員
無所属

かんばらこういちろう 神原宏一郎の つながり通信

～生活・社会そして人・・・すべては政治とつながっている～

関心・期待感・信頼感を抱く政治へ

◆ 先進自治体の視察報告 ～参考になる事例が目白押し～ ◆

～姉妹都市交流と総領事館との連携～

＜新潟県新潟市＞

①姉妹都市との積極的な交流

新潟市は、ロシアのハバロフスク市、ウラジオストク市、ビロビジャン市のほか、アメリカのガルベストン市、フランスのナント市と姉妹都市提携を締結するとともに、中国のハルビン市と友好都市提携を、韓国のウルサン市と交流協定を結び、以下の事を積極的に行っています。

- ・海外とのビジネスマッチングや外国人消費者向けの新潟産食品の開発支援などの経済交流
- ・環境保全に対する国際的な協力
- ・音楽、マンガ、アニメ、踊りなど様々な分野での文化交流
- ・スポーツ分野での交流
- ・青少年の相互派遣やホームステイなどの異文化交流

自治体間外交を積極的に進めるべき

長年にわたる市民交流を中心とした都市間交流を継続することで、国家間の情勢に左右されにくい強固な信頼関係が築かれている印象を強く受けました。

②ロシア総領事館との連携

日本には東京にあるロシア大使館のほか、札幌、新潟と、豊中(緑丘)にロシア総領事館があります。豊中にあるロシア総領事館は、地域や近隣住民との交流、市との連携はほとんどありませんが、在新潟ロシア総領事館は新潟市や地域と様々な連携や交流をしています。

- ・毎年6月12日のロシアの日(ナショナルデー)に合わせて、市の関係者や新潟の政財界、ビジネス関係者、在住ロシア人などが幅広く招待されて総領事館主催で祝賀会の開催
- ・『ロシア語スピーチコンテスト』をロシア総領事館、新潟県立大学、新潟国際情報大学などを実行委員会として、ロシア総領事館の総領事を実行委員長に開催

総領事館も地域資源として活かすべき

豊中市も大阪大学や商工会議所などと連携するなど、総領事館との交流を図り、地域や近隣住民、市民にとって親しみの持てる施設となるよう取り組むことで、地域資源として活用できる可能性を感じました。

～完全米飯給食と牛乳分離の取組み～

＜新潟県三条市＞

①完全米飯給食を実現

三条市は減り続けるお米の消費量、増え続ける生活習慣病を問題視し、また、ご飯中心の和食は脂肪が少なく、急激な血糖値の上昇を防ぎ、満腹感を持続させることに注目し、平成20年4月から、完全米飯給食に移行し、様々な効果が出ています。

- ・学校給食の残食率が低下傾向
(平成27年度の残食率は小学校3.3%、中学校4.6%)
- ・肥満児童・生徒の割合が減少傾向
- ・朝食を毎日食べる児童生徒の割合が増加傾向

学校給食を通して生涯の健康づくりを実践すべき

学校給食は食べることを学ぶ時間、健康に良い食事を学ぶ生きた教材であり、おいしい給食の追求はもちろん、給食指導に力を入れるとともに、家庭も含む啓発により一層、力を入れる必要があると感じました。

②牛乳分離(ドリンクタイム導入)の取組み

日本の伝統的な食文化に牛乳はなく、ご飯を食べながら牛乳を飲む家庭は少ないことから、三条市は平成26年12月から、試行的に給食での牛乳の提供を停止しました。同時に、主食や副食を増やす、カルシウム強化のヨーグルトを多用する、小魚などを使った手作りふりかけを週1回提供するなどして、カルシウム等を補っていました。しかし、乳製品の多用で献立の洋風化や、牛乳に代わる限られた食材の多用で献立の固定化、主食や副菜が増え食べきれない児童生徒がいるなどの課題がでました。そこで、平成27年9月から給食には牛乳を提供せずに、給食時間と切り離れたドリンクタイム(牛乳飲用時間)を設定しました。ドリンクタイムは、学校ごとに異なりますが、多くの学校は給食の直前や昼休み前に実施し、今でも金曜日は牛乳を提供せず、お茶の日としています。

学校給食が献立のお手本になるよう努めるべき

給食が栄養バランスだけでなく、食べ合わせを含めた献立のお手本にならないと痛感しました。

◆ 会派視察報告！！～上手な民間活力手法を学ぶ～ ◆

個人としても会派としても各地の先進事例を学ぶべく、積極的に足を運んでいます。その視察内容について、しっかりと皆さまにご報告し、市への提言にも努めて参ります。

～規則で縛らない図書館とは??～ 『誰もが居場所を見つけられる空間』

＜神奈川県大和市＞

大和市は昨年11月、図書館、屋内こども広場、芸術文化ホール、生涯学習センターなどの複合施設「シリウス」を開設しました。運営には指定管理者制度を取り入れ、施設全体を一つの図書館とみなし、誰もが居場所を見つけられるようにと様々な工夫が施されています。オープン9か月で来館者200万人を突破しました。

◇特徴◇指定管理者が専門集団

指定管理者の「やまとみらい」は、図書館流通センター、サントリーパブリシティサービス、小学館集英社プロダクション、ポーネルドなど6社で構成する企業集合体で、それぞれが図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場の運営を専門領域として施設を管理、運営している。

＜指定管理者制度導入のメリット＞

- ① **独創的なアイデアを活用～ルールで縛らない取組み～**
私語や飲み物の持ち込み、学習による長時間利用などの制約を一切無くしたが、特段のトラブルもなく利用者に好評。
- ② **開館時間の大幅な拡大～常にお客様目線に対応～**
指定管理者の職員は勤務時間の融通が利きやすく、元日と大晦日以外は開館し、開館時間も9時から21時まで拡大。
- ③ **機械化で人件費を削減～他のサービスを拡充～**
自動貸出機や返却機など機械化を進め、可能な限り人件費を抑制。その分を利用者ニーズに応えるサービスに充当。
- ④ **こども広場、市民交流スペース、コーヒーチェーン店・・・～親子連れ、学生、高齢者、多世代が集える空間づくり～**
子どもが思いっきり遊び、学べる子ども用のエリア、中高生や大学生が学習する場、至る所で座れる場（施設内に座席を850席整備）、コーヒーチェーン店まである。

柔軟な発想と利用者ニーズを意識した事業を

細かなルールで利用者を縛らない、開館時間を大幅に延長するなど、利用者の視点に立った施設運営は民間活力の成果といえます。誰もが利用したくなるような“市民の居場所”とするのであれば、利用者の視点で、どのようなサービスが求められているのかを考える必要があります。利用者ニーズを的確に捉えれば、自ずと図書館のあるべき姿、運営手法は見えてくるはずです。

～コミュニティバスはどうあるべき??～ 『指定管理者制度を活用したバス運行』

＜愛知県尾張旭市＞

尾張旭市は10数年前から、民間バス会社による不採算路線の運行停止が相次いでいました。そこで、既存のバス停及び鉄道駅から500m圏外を「市内の交通空白地」と定義し、その解消を目指すこととしました。

◇特徴◇市営バスに指定管理者制度を導入

平成16年12月に料金1回100円として、9人乗りワゴン車3台で、3ルートでの試験運行を開始。その後、ルートの拡充や見直しを重ね、利用者が増えたことからマイクロバスを導入。平成20年4月に尾張旭市は、市営バスを公の施設と位置づけ、指定管理者制度を導入し本格運行を開始。

＜指定管理者制度の導入効果＞

- ① **運転手の待遇が向上**
事業者が独自に待遇研修を実施し、待遇面が大幅に向上。
- ② **市営バスの利用を啓発**
事業者が市のイベントに積極的に参加し、市営バスをPR。
- ③ **車体広告事業を開始**
事業者が独自に収入増加の取組みを実施。
- ④ **回数券販売所の開拓**
事業者が郵便局やスーパーなどに回数券販売所を開拓。

利用者数は1.3倍増、経費は6.5倍増

利用者数は当初の約**1.5万人**が、昨年度は約**20万人**。
経費は当初の約**1000万円**が、昨年度は約**6500万円**。

「なくてはならない」事業に税金の投入を

利用者は増えているものの、財政負担も増えており、市の負担とサービス提供のバランスをどう考えるかが課題と感じました。しかし、尾張旭市は、公共交通を整備する際、「市内の交通空白地」を、既存のバス停及び鉄道駅から500m圏外と明確に定義し、既存の民間路線と市営バス（コミュニティバス）の役割分担も明確にしていることから、無駄な事業とは感じませんでした。

「あったらいいな」ではなく、「なくてはならない」ものにこそ税金を投入し、施策を展開するという理念を豊中市の職員も一人一人が持ち、少なからず誰かが喜ぶ事業ではなく、絶対になくてはならない事業を展開すべきです。

発行元 前向きひろば ～Positive Square～

〒560-0021 豊中市本町 3-1-20 エルビル 2階

TEL & FAX: 06-6854-5664

平日(土・祝日は除く)の10時から17時はスタッフがおります。

young_spiritjp@yahoo.co.jp

http://www.geocities.jp/positive_square/

Facebook 活用しています!!

「つながり日記」毎日 HP で更新中!!

※ご希望の方には通信を無料でお届けします。お気軽にご連絡ください。

